

三位 ジュミジン 22歳 韓国

トルネードのように怖いタバコから東京を守る方法について

私は2014年の9月から2015年の8月まで東京で交換留学をした韓国人です。私が日本に住んでいる中で驚いたことの中の 하나가、ファミリーレストランで喫煙することができるということです。喫煙区域とかでタバコを吸うのではなく、レストランの普通の席でタバコを吸うことができるということが、すごくびっくりでした。

私は子供の頃、父と母の仕事場の所にある、部屋が一つしかない狭い所で住んでいたのですが、外で遊ぶことが多かったです。それで、タバコを吸っている父のそばで遊ぶ時が多く、そのせいか、私は喘息がありました。その後、新しく作った家に引っ越しをした後からは喘息がなくなりました。だから私は、私の喘息はタバコのせだったと思っています。それで私はタバコがとても嫌いです。そういう過去があるため、タバコを吸うことができるそのレストランはそれ以来、行かなくなりました。

その後、テレビのドラマとかで、食堂でタバコを吸う場面を目にすることがあります。そして食堂でタバコを吸うシーンが多いことに再び驚きました。タバコの煙がタバコを吸わない人が座っている隣の席にまで広がっていく場面を見て、日本人も意外に利己的な人が多いのではないのかと思うようになりました。そしてタバコを吸わない人たちも、どうしてタバコの煙で苦しまなければならないのか悲しくなりました。

それで、私はたくさんの所に喫煙ボックスを設置した方がいいと思います。人が入ることができる大きなサイズのボックスを作って設置してタバコを吸う人たちがその中でタバコを吸うようにしたらいいと思います。そうすればタバコを吸う人は堂々とタバコを吸うことができるのはもちろん、タバコを吸わない人はきれいな空気を吸うことができるので一石二鳥だと思います。さらにデザインをきれいにすると多くの人々が利用することができると思います。設置場所は街中や建物どちらにも必要だと思います。その中でも私は特に、小さなお店がある所にも喫煙ボックスを設置するべきだと思います。店一つ一つに全部設置するのは無理だと思いますので、

建物の一階に必ず一つの喫煙ボックスを設置することができるようにした方がいいと思います。

そして、テレビのCMなどを利用してタバコの悪さを知らせるのもいいと思います。タバコによって病気になって苦しんでいる姿を俳優さんが演技して、その姿をテレビで放送してもいいと思います。韓国では有名な芸能人であるイジュイルが実際にタバコによって肺癌で苦しんでる姿が番組で放送されたことがありました。そしてそのイジュイルさんが亡くなる前に残した‘タバコ，美味しいですか。それは毒薬です。’と言う言葉は、たぶん、韓国人の多くの人が知っているはずだと思います。人は病気になって早く死ぬことより、病気になって死ぬ前までに長い間、苦しんでいる姿を見たほうがもっと怖く感じますので、病気になって苦しむ姿を見せるほうがもっとインパクトがあるはずだと思います。

この二つの意見の中で、私は喫煙ボックスを設置するのが一番先にすべきだとも思います。喫煙者を減らすのがもちろん一番いいでしょうけど、それは難しいと思っていますので、喫煙ボックスが尚更必要だと思っています。私の父は、去年仕事中に大きな怪我をしてしまって、病院に入院したことがあります。その時に禁煙をすることになりましたが、退院してから約6ヵ月後にまたタバコを吸うようになりました。父は病院に入院している時に‘お酒はもう飲みたくないけど、タバコは吸いたい。’と言いました。それで私は、タバコは、巻き込まれてしまうと抜け出すことが難しいトルネードのようだと感じました。中毒性が強いということがよく分かりました。それで、私はせめて喫煙をしない人たちのために、喫煙ボックスの設置が必ず必要だと思います。

2020年東京オリンピック大会を私もとても楽しみにしています。2020年になる前に東京がタバコの煙から解放することができるように、私も祈っています。